

平成21年度 学校経営計画書に対する中間報告書

石川県立志賀高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の課題（改善策等）
1 学力の向上 (1) 生徒の学習意欲を喚起し、自主的に学習活動に取り組む態度を養う。 (2) シラバスの改善を図り、充実した活用に努める。	① 適切な課題の出題、考査と考査の間に2回以上の確認テストを行うなどで、家庭学習の意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	家庭学習時間を、一日平均60分以上確保できている生徒が A：70%以上である。 B：60%～70%未満である。 C：50%～60%未満である。 D：50%未満である。	D	生徒対象のアンケート調査結果は、17.3%であった。基本的な学習習慣の身に付いていない生徒が、実に多いことが明らかになった。また、家庭学習課題の量の調査では、少ない、やや少ないと答えた生徒が56.9%、教職員対象のアンケート調査では、確認テストの実施調査の結果は、A+Bの合計が58.4%に止まっていた。実技実習等の授業では実施困難な面もあるが、今後は、より一層の教職員の共通理解のもとで指導徹底を図り、さらに普通科では朝学習プリント、総合学科ではベーシック課題等も加えて指導徹底していきたい。
	② 生徒の実態の把握に努め、シラバスの改善を図り、授業の内容・進捗等の改善に努める。	シラバスの改善を踏まえ A：授業改善が十分進んだ。 B：授業改善が十分とは言えないが生かされた。 C：授業改善が少し生かされた。 D：授業改善に生かされなかった。	A	A+Bの合計が、95.9%であった。今後も引き続き、この取り組みを全教職員に対して勧めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・勉強は社会に出ても必要なので、生徒には学習・勉強の大切さを気づかせてもらいたい。 ・学習に関することは、学校に頼ることしかすべが無いので、学校で勉強させる工夫をお願いしたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・電子黒板を有効的に用いた授業スタイルを早く確立し、なお一層の授業改善や課題の与え方を工夫していきたい。そして生徒に主体的に学習に取り組ませて「やればできる」という満足感や達成感を感じさせ学力向上につなげたい。			
2 進路の実現 (1) 3年間を見通した進学指導の充実を図る。 (2) 早期の就職内定に向けて、積極的な指導に努める。	① 補習授業を行い、進学希望者の実力向上を期すると共に各種模擬試験を行い、結果の分析を進学指導に活かす。	1年生普通科全員の補習授業の参加率が A：90%以上が受講・受験する。 B：80%以上90%未満が受講・受験する。 C：70%以上80%未満が受講・受験する。 D：70%未満しか受講・受験しない。	A	参加率が、95.0%であった。 しかし、欠席する生徒が固定化している傾向がみられる。夏季補習の後半期間での立て直しを図ることが重要であろう。その方策として、進路実現のためには学力向上が必要であることを進路説明会等を通じて周知していく。
	② 1年次のインターンシップを通じて、自己の職業生活をたくましく切り開いていこうとする意欲や態度を身につける。	インターンシップが進路決定の参考になると答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%～90%未満である。 C：70%～80%未満である。 D：70%未満である。	生徒の報告書にあるアンケートをもって判断する。（9月）	インターンシップの活動が、直接的に就職活動になるわけではない。しかし、就業体験を通じて生徒が自分の将来像を描きはじめるきっかけになっている。 今年度は1年生の総合学科全員による実施であった。
学校関係者評価委員会の評価	・1年生は、志賀高校卒業生の一期生になるので、生徒一人ひとりの進路実現を達成させてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・進学や就職についての情報を多く与えると同時に、LTや進路説明会などを利用して自己の進路について考えさせ、早期に自己の目標を立てさせたい。			
3 基本的な生活習慣の確立、在り方・生き方教育 (1) 登校指導、巡回指導、授業規律の確立、携帯電話のマナー指導等に取り組む。 (2) あらゆる場面を通じて全人教育を行う。	① 全職員が登校指導や校内外巡視を行い積極的に生徒とコミュニケーションを交わす。また個人指導等を利用する。	学校、クラスの中で自分に与えられた役員、当番の仕事が確実にできるようになり意識改善ができたかが A：80%以上である。 B：60%～80%である。 C：40%～60%である。 D：40%未満である。	B	生徒対象のアンケート調査では学校では与えられた仕事を行うことができるが、保護者対象のアンケート調査では家事の仕事分担など自分の役割を果たすことができてない。学校から離れたときの意識改革が必要である。
	② 携帯電話使用マナーの誓約書を提出してもらう。	携帯電話使用マナー誓約書の項目を保護者と一緒に守っているかが A：80%以上である。 B：60%～80%である。 C：40%～60%である。 D：40%未満である。	B	生徒と保護者対象のアンケート調査ではA+Bで70.9%の数値が出ており、携帯マナーに関する意識がある。しかし数人の生徒によるネット上のトラブルがあり今後、トラブル防止に向けての対策、指導が必要と考える。また教職員の方から今以上の情報モラルに関する指導を仰ぎたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の課題（改善策等）
	③ 美化週間を年3回実施し、環境の美化と生徒の美化意識を向上させる。	今年度4クラス中 A：平均点13点以上が全クラス。 B：平均点13点以上が3クラス。 C：平均点13点以上が2クラス。 D：平均点13点以上が1クラス以下。	B	第1回の教室チェック(5日間実施)の結果、高浜高校では平均13点以上のクラスは3クラスであった。特に総合学科で成績がよく、高浜と合同でも上位3クラスは全て志賀高校となった。教室チェックの成績が悪かった1クラスは、始めのうちチェック項目及び保健委員のチェックの視点が分からなかったため成績が悪かったと考えられる。次回からは志賀高校の保健委員は志賀高校のクラスをチェックする予定である。
	④ 健康診断の結果を通知し（受診票配布）、受診（治療）率、特に歯科受診率向上を図る。	A：歯科受診率50%以上である。 B：歯科受診率40～50%未満である。 C：歯科受診率30～40%未満である。 D：歯科受診率30%未満である。	夏期休業中の受診者数を把握してから集計を行う予定（現在の時点ではD）	受診が必要な生徒へは、健康診断後と夏季休業前の2回受診勧告書を渡した。保健だより等で治療を促しているが、8月6日現在、受診率は、1年5.0%で少ない状況である。夏季休業中に通院するよう保健だよりでも促したので、夏季休業後に受診者を把握する予定である。
	⑤ 全校面談週間による個人面談を、年2回実施し、生徒の現状理解に学校全体で努める。また、生徒に対する日常的な声掛けを全職員で心掛ける。	A：かなり聴いてくれる。 B：まあまあ聴いてくれる。 C：少ししか聴いてくれない。 D：全然聴いてくれない。	第1回のアンケート結果では、1年生でAが15.4%、Bが57.7%、Cは15.4%、Dは11.5%という評価になっている。	第1回のアンケート結果では、多くが好意的に受け止めてはいるものの、1/4の生徒はマイナス的な結果である。全教職員による日常的な声掛けを徹底する必要があると思われる。
	⑥ 「生徒の理解と対応」をテーマとした研修会を企画・実施し、教職員の資質向上に寄与する。	A：かなり役に立つ。 B：まあまあ役立つ。 C：少ししか役立たない。 D：校内研修会を実施しなかった。	研修会直後のアンケート結果では、Aが40%、Bが60%という評価であった。	評価はまあまあであり、総じて研修会の役割は果たせていると思われるが、より一層生徒理解に資する内容にしたいと考えている。
学校関係者評価委員会の評価	・挨拶や掃除をする習慣は、社会に出ても必要不可欠なので、粘り強く指導徹底させてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・学力向上には学習環境の整備も大切な要因の一つである。勉強しやすい環境、落ち着いて学習できる環境作りのためにも日頃の清掃を引き続き徹底させたい。 ・今後も朝の登校指導の中で、挨拶励行や遅刻指導を行って基本的な生活習慣の確立を実現したい。またその指導は画一的なものにならないよう生徒一人ひとりに対応したものにしたい。			
4 体力向上と部活動の活性化 (1) 学校をあげて「体力アップ1校1プラン」を推進する。 (2) 部活動を通しての人格陶冶を図る。 (3) 競技成績の向上に努める。	① 体力アップを推進し、生徒の体力向上を図る。	新体力テストの総合評価のABC群が A：75%以上 B：70%以上75%未満 C：65%以上70%未満 D：65%未満	11月実施予定の追跡テストの集計結果で判断する。（4月時点での結果はABC群62.7%）	基準データとなる4月実施の新体力テストの結果はA群6.9%、B群19.6%、C群36.2%、D群24.5%、E群12.8%であった。11月の追跡テストまでに生徒全体の意識と意欲を高め、全体的な底上げが必要であると考え。目標を達成するために、特にD群の生徒に着目してD→Cへのひき上げに努力する必要がある。
	② 部活動への全員加入を推進する。	部活動加入率が A：100% B：95%以上100%未満 C：90%以上95%未満 D：90%未満	B	5月の加入状況調査では、部活動加入率が97%である。男子に3名の未加入者がいるが、声掛け等、加入への地道な取り組みが必要である。
	③ 部活動を活性化する。	部活動への取り組みに対して A：十分満足している。 B：満足している。 C：満足感がうすい。 D：満足感が得られず不満が残った。	生徒のアンケート結果は A：19% B：43% C：18% D：20% であった。	A+Bの合計が62%と、部活動の取り組みに対して満足感持っている生徒が6割を超えている。後期は高浜高校の3年生が抜けた志賀高校1年生と高浜高校2年生の新人での取り組みとなるが、より充実した取り組みとなるよう担任、顧問と連携を図っていききたい。
学校関係者評価委員会の評価	・部活動加入状況を見る限りはすばらしいが、生徒一人ひとりの満足感・充実感を高める指導をお願いしたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び今後の課題（改善策等）
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 部員だけで活動するのではなく、顧問が必ず日々の部活動に参加して練習の引き締めを図る。また練習内容を工夫し、スポーツメンタル講習会や体力アップトレーニング講習会を実施して、技術の向上だけでなく精神面や体力面も指導していきたい。 			
5 地域との連携 (1) 地域から信頼される学校づくりを目指し、ボランティア活動等に取り組む。 (2) 学校HP, 学校便り等を通して情報発信を行う。	① 積極的にPTA活動を展開して、保護者に多く活動に参加してもらう。	一年間で来校した回数や学校行事に参加した回数が A：5回以上である。 B：3回以上である。 C：1回以上である。 D：0回である。	第2回(1月)の学校評価アンケートをもって判断する。	PTA総会では保護者数106名中49名の出席があり、6月の保護者懇談では96名が来校し、またPTA研修旅行では20名の参加が、夏休みに行われた校舎内環境整備(ペンキ塗り)では14名の保護者が参加した。今後文化祭やマラソン大会の豚汁サービス等の活動があるが、来校してもらえる保護者は役員の方が多い。少しでも多くの一般会員の保護者が来校してもらえるよう参加を呼びかけたい。
	② ボランティア活動・地域の行事等、地域との交流に積極的に取り組む。	ボランティア活動・地域の行事等、地域との交流に A：積極的に取り組んでいる。 B：十分とはいえないが、概ね参加している。 C：あまり参加していない。 D：全く参加していない。	生徒のアンケート結果は A：10% B：27% C：46% D：17% であった。	第1回の生徒アンケートでC「あまり参加していない」が46%、D「全く参加していない」と回答した生徒が17%であった。ボランティア活動に興味はあるけど、参加の仕方が分からない生徒も多くいると思うので、その辺の情報も生徒にもっと与えて取り組む生徒を増やしていきたい。
	③ ホームページや各課・学年等の通信文書等の内容を充実させ、本校の教育活動を理解してもらう。	学校発信の情報で本校の教育活動内容が理解できたと感じる保護者の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	保護者のアンケート結果は A：16% B：60% C：20% D：4% であった。	第1回の保護者アンケートの「総務たよりやHPを通じて学校の様子が理解できた」という質問に対してA+Bの合計が76%であった。引き続き発信を続けるとともに、生徒が配布物を必ず家に持ち帰ることも言い続けていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動を知らせる配布物が、保護者の手元に十分届いていないので、生徒に配布物を手渡すとき十分説明・説得してもらいたい。 学校経営計画の中間報告を生徒にも示して、生徒自身にも「気づき・反省」の機会を持たせてもらいたい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健全育成には学校と保護者の連携が必要なことは言うまでもない。配布物は家に持ち帰るよう言い続けるとともに、保護者にも日々学校からの配布物はなかったかどうか子どもへの問いかけをしていただけるよう保護者懇談等を通してお願いしていきたい。 LTの時間に中間報告の結果を生徒に示して、考えさせる。 			